

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年08月07日

計画の名称	新幹線効果をもとめるための諫早市のまちづくり（第2期）											
計画の期間	平成31年度～令和05年度（5年間）										重点配分対象の該当	○
交付対象	諫早市											
計画の目標	<p>長崎県の中央に位置する諫早地域は、長崎、島原、大村、佐賀・鹿島方面を結ぶ幹線道路の合流点であることから、鉄道網やバス路線の結節点とした地理的特性を活かし、古くから交通の要衝として栄えてきた。しかしながら、社会資本整備の遅延に伴い、幹線道路において慢性的に渋滞が発生するなど、都市基盤が脆弱であるため、早期に整備改善することは、本市の持続可能な発展からも急務である。</p> <p>また、令和4年度には九州新幹線西九州ルートの開業が予定されており、本市や周辺市における景気浮揚を目的とした交流人口の増加を目指す上でも、諫早駅周辺の整備については、特に急務である。</p> <p>このような中、九州新幹線西九州ルートの開業による交流人口の増加に対応したまちづくりの促進を図る目的のため、諫早駅を中心とした周辺地区において、更なる交通結節点の改善や環境整備を目的とした駅前広場・自由通路の整備並びに市街地再開発事業を実施し、コンパクトシティの推進を図る。</p>											
全体事業費（百万円）	合計（A+B+C+D）	2,614	A	2,614	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C / (A+B+C+D)	0 %

番号	計画の成果目標（定量的指標）			
	定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値		
		当初現況値 (H30)	中間目標値 (R3末)	最終目標値 (R5末)
1	諫早駅前で行われる年間のイベント回数を1回（H30）から12回（R5）に増加 諫早駅前で行われる年間のイベント回数	1回/年	回/年	12回/年
2	駅利用者の満足度が17.8%（H30）から60.0%（R5）に向上 駅利用者へのアンケート調査（平日及び休日の平均）	18%	%	60%
3	計画区域内の居住人口を794人（H30）から1,052人（R5）に増加 諫早駅周辺地区都市再生整備計画区域内の居住人口	794人	人	1052人

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																						
基幹事業(大)	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況			
												H31	R02	R03	R04	R05						
		一体的に実施することにより期待される効果																				
		備考																				
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	諫早市	直接	諫早市	-	-	諫早駅周辺地区(第2期) 都市再生整備計画	諫早駅周辺地区 27.7ha	諫早市						2,614	1.19	-			
												小計						2,614				
											合計						2,614					

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
<ul style="list-style-type: none"> ・効果、方策に関わる検討体制 諫早市 建設部 ・都市再生整備計画評価委員会の審議 学校法人 鎮西学院 鎮西学院大学 教授、諫早商工会議所 専務理事、一般社団法人 諫早観光コンベンション協会 専務理事、永昌東町自治会 自治会長、永昌町自治会 自治会長 	令和5年4月～令和6年1月
	公表の方法
	諫早市ホームページ
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	(指標1 年間イベント回数) 駅前広場や交流広場の整備により、物販・マルシェ等の集客を伴う各種イベントを催す場が創出されたことで開催回数の増加につながった。また、開催回数についても年々増加傾向にあり、今後もイベント開催による地域の賑わい創出の効果が期待できる。 (指標2 駅利用者満足度) 満足度を問う設問において、すべての項目で従前値よりも高い値となっており、従前値に対して2倍以上の評価値となっている。一方、新幹線開業における効果発現の途中過程であり、今後更なる上昇が見込まれるものの、目標の達成には至らなかった。 (指標3 居住人口) 地域の居住環境・利便性の向上を図り事業を推進したことで、整備前に比べ居住人口は増加しているものの、目標値には至らなかった。計画区域の大部分を占める永昌東町の居住人口については、周辺の地域(栄田町・永昌町)と比べ、人口増加率が高く、事業による効果が伺える。また、新幹線開業による地域の利便性向上、それによる居住の誘導効果の発現過程であることが考えられ、今後更に居住人口の増加が見込まれる。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況(必要に応じて記述)	
特記事項(今後の方針等)	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	年間イベント回数（回 / 年）		
	最終目標値	12回/年	駅前広場や交流広場、周辺の道路環境や駅利用に係る各種整備により、物販・マルシェ等の集客を伴う各種イベントを催す場の創出、アクセス性の向上が図られたことで開催回数の増加につながった。また、開催回数についても年々増加傾向にあり、今後もイベント開催による地域の賑わい創出の効果が期待できる。
	最終実績値	32回/年	
2	駅利用者満足度（％）		
	最終目標値	60％	満足度を問う設問において、すべての項目で従前値よりも高い値となっており、従前値に対して2倍以上の評価値となっていることから、事業効果は確実に評価されている。一方で評価の一要素である新幹線開業効果が、発現過程であると考えられ、目標の達成には至らなかった。
	最終実績値	41％	
3	居住人口（人）		
	最終目標値	1052人	地域の居住環境・利便性の向上を図り事業を推進したことで、整備前に比べ居住人口は増加しているものの、目標値には至らなかった。計画区域の大部分を占める永昌東町の居住人口については、周辺の地域（栄田町・永昌町）と比べ、人口増加率が高く、事業による効果が伺える。
	最終実績値	944人	